

むつ市議会第 258 回定例会、杉浦弘樹議員

高齢者無料乗車証事業やインフルエンザワクチン助成について市の見解を質す

むつ市議会第 258 回定例会は 12 月 6 日より一般質問が行われ、改選後の初議会ということもあり 16 議員が登壇しました。

杉浦議員は 4 日目の 11 日に登壇、主にインフルエンザワクチン接種費用助成の対象条件拡大と窓口負担の一律化、高齢者バス無料乗車証事業「アゲハ」の ICT 化及びマイナンバーカード登録を必要としない乗車証の交付について質問（下記に詳細を記載）しました。他にも北限のサルによる被害状況の把握方法の現状と課題について、原付用バイクへのご当地ナンバープレートの導入についても質問を行いました。

また、佐藤広政議員が小中学校の教育費の無償化の早期実施を求める質問が出され、市側では費用が 2 億 4 千万円程度と試算されることから、厳しい財政状況の中で期日は明示できないが最優先課題として検討していることが回答されました。杉浦議員同様無会派の高橋政志議員は PTA 組織の任意加入について市当局の確認を求め、任意加入であることを確認させました。

～杉浦議員の主な質問趣旨と答弁内容について～

【インフルエンザワクチン接種費用関連】

質問 現在、小学生以下について 1 回のみ 2,000 円が補助されているが、対象者や補助制度を改善できないか。また、診療機関により被接種者の窓口負担額を一律化できないか。

回答 13 歳未満の年少者へは 2 回の接種が必要とされているが、子育て支援の立場からも、制度の改善については今後の検討課題としていたので了解いただきたい。また、接種料金は自由診療の範疇にあり、画一化は難しいが地元医師会とも協議しながら平準化を検討していきたい。（健康づくり推進部長）

【高齢者バス無料乗車証事業「アゲハ」関連】

質問 高齢者バス無料乗車証事業「アゲハ」は高齢者の免許返納推進の立場からも有意義な事業と考えるが、現在の仕組みでは該当する乗降者の乗車区間の確認も含めてバス運転者に過大な負担をかけている現状を考えると、乗降時の確認の自動化システムの導入が必要でないか。また、現在、マイナンバーカード保有が条件とされている本制度について非保有者も数多くあり、マイナンバーカードと切り離した対応が必要でないか。

回答 現行の制度は悪用防止の観点から顔写真付き本人確認の必要性もあり、費用持ち出しのないマイナンバーカード保有を必須としている、今後はスマートフォンによりアプリ提示形式で利用時の利便性を図りたい。現在の制度も残ることからバス運転手の加重負担にならないよう、バス事業者とも協議を重ねたい。しかし、現時点でマイナンバーカード保有と切り離すことは想定していない。（市長、企画政策部長）



むつ市議会は 11 日、一般質問を行った。山本知也市長は来年度、スマートフォンを活用した本人確認アプリ（仮称）むつ市住民バスポートを導入予定であることを明らかにした。マイナンバーカードと連携させ、

むつ市議会一般質問

高齢者がバスに無料乗車する際の本人確認などに使ってもらった。杉浦弘樹議員（無会派）が質問した。

市は、75 歳以上の高齢者が路線バスやデマンド型乗り合いタクシーに無料で乗ることができ

本人確認アプリ導入

「高齢者無料乗車証事業」を実施している。現在はマイナンバーカードの提示によって本人確認をしているが、これが不要になる。

市によると、アプリは医療機関窓口での医療費受給者証提示に活用される。阿部謙一教育長は PTA の入退会についての見解をただした。

来年度バス乗車などに活用

の代わりになるほか、災害時に避難場所までの経路を示す機能なども盛り込む見通し。

山本市長は、高齢者無料乗車証との関連で「これまで通り既存のカードケース型乗車証も活用できる」と説明。また「高齢者の代わりになるほか、災害時に避難場所までの経路を示す機能なども盛り込む見通し。」とそれぞれ答えた。

一般質問は全部で 4 人が登壇した。

（熊谷慎吉）

12/12 東奥日報

中間貯蔵施設共用化案存在しない 山本市長が議会答弁

今市議会で佐々木隆徳議員の使用済み核燃料中間貯蔵施設の他電力会社との共用化に関する質問に対して山本市長は「共用化案は私たちの中には存在していない」との見解を示しました。

山本市長は市、県、東京電力、日本原発の 4 者が結んだ中間貯蔵施設の立地協定で、東電と原発の原発から発生する使用済み核燃料のみを貯蔵する取り決めになっており、「協定外の事業者が参入することは案になり得ない」と強調しました。

この件に関しては宮下知事も 11 月 30 日の県議会で吉俣洋議員（共産）の質問に対し同様の立場を表明しています。

※ その他市議会一般質問関連新聞記事を次ページ以降に掲載しています



◇井田茂樹議員
(自民党) 民俗芸能や伝統を絶やさぬ方策は。

◇阿部謙一教育長
後継者不足に悩む伝統行事の継承や、行事による地域活性化を目的に、若い世代が行事に参加しやすい環境づくりの条例の2024年4月施行を目指し準備を進めている。



◇工藤祥子議員
(無所属) 除雪のGPS(衛星利用測位システム)導入の効果は。

◇山本市長 昨年導入、稼働履歴を可視化し除雪漏れを早急に確認できるようになった。15日からは市民向け除雪情報サイトを公開し、地図上で除雪路線を色分けし状況を示す。



◇櫻田秀夫議員
(公明・自由) 本年度末期限の川内地区デマンドタクシーについて。

◇角本力企画政策部長 市内タクシー事業者の運転手不足などがあり、24年度は自家用有償旅客運送制度を活用し、市直営と事業者委託を合わせた形で運行継続を検討している。



◇村中浩明議員
(陸奥未来) いじめと不登校の現状を述べ。

◇阿部教育長 22年度はいじめが小学校64件で21年度の11件増、中学校は26件で21件増。いずれも早期に対応し解決済み。不登校は小学校24人で9人増、中学校は72人の8人増となっている。



◇佐々木隆徳議員
(陸奥未来) むつ市、川内町、脇野沢村3漁協合併を進めるべき。

◇立花一雄経済部長 2020年に3漁協協議会が合併の検討会を開催したが、1漁協に温度差があった。各漁協の意思を尊重することが大切であり、今後機会を捉えて確認したい。



◇野中貴健議員
(市誠心) 「スーバーさどちようむつ松木屋店」開店の影響は。

◇木下尚一郎都市整備部長 周辺住民に少なからず影響がある。むつまちづくり株式会社が一パー再開に向け協議調整を進めていると聞いており、早期再開を期待している。



◇佐賀英生議員
(市誠心) 栗研地区へ宿泊施設を誘致しては。

◇山本市長 地区の今年1～10月の観光客入り込み数は6万338人でコロナ禍前の19年同期比33%増。一方、宿泊施設は15年の5軒から現在は1軒だ。採算性把握の基礎データ収集手法を研究したい。



◇佐藤武議員
(無所属) 町内会活動の支援を述べ。

◇角本力企画政策部長 活動の経費補助は23年度11月末現在、97町内会で計377万6470円。集会場の修繕などの補助は22年度に10件の申請があり、うち23年度で4件、計84万1394円を交付した。



◇富岡直哉議員
(陸奥未来) あおもり国スボ・障スボの関係者の受け入れ体制は。

◇齊藤洋一民生部長 市内実施競技の人数は計2640人、宿泊想定人数は延べ1万2500人の見込み。競技の会期前分散開催や近隣町村との広域配泊などを計画している。



◇角本企画政策部長 7事業者が営業、車両は大型車と普通車で計78台、運転手は93人。働き方改革や運転手不足といった要因から、深夜帯を含む24時間営業で運行しているのは2事業者となっている。

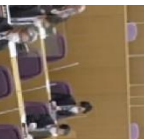


◇東健而議員
(市誠心) 食料増産の取り組みを示せ。



◇立花一雄経済部長 来春操業する大規模トラクト工場では3.4%の農地を利用、年間約1500トンのトラクトが生産される。今後も農地の集積、集約化やスマート技術による規模拡大などを推進する。

◇佐藤広政議員
(市誠心) 一部事務組合負担金削減の具体的な取り組みと見通しは。



◇松谷勇財務部長 下北医療センターでは、むつリハビリテーション病院で透視部門の新設による収益増加に伴い、4年間で2億2千万円の負担金を削減できると見込んでいる。



◇吉年広議員
(公明・自由) 生ごみ減量の考えは。

◇山本知也市長 市財政への影響とごみ非出量の二つの観点で検討する必要がある。ごみの重量を特に引き上げているのが水分を含んだ生ごみ。焼却炉の燃焼効率も下げるので、まず減量に取り組みたい。



◇高橋征志議員
(無所属) PTAの入退会は自由か。

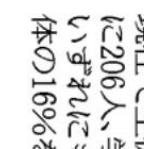
◇阿部謙一教育長 入退会は自由だ。任意加入であることについて、一部の学校で保護者への説明が不足していたことから、今後はその説明を丁寧に行っていく。



◇杉浦弘樹議員
(無所属) ニホンザルの被害把握の方法は。



◇立花一雄経済部長 被害の連絡を受けた際には川内、大畑、脇野沢各庁舎とも連携し、現場の確認や追い払いなどをす。周囲の状況も観察し、農地で被害を発見したときは耕作者に連絡する。



◇中村正志議員
(自民党) 中学生の部活動や地域クラブ「むつ☆かつ」参加の状況は。

◇阿部教育長 今年9月現在で生徒1274人のうち、むつ☆かつに206人、学校部活動には856人が加入。いずれにも不参加の生徒は203人で全体の16%を占める。



11月28日、青森市で「原子力共創会議」が初会合、当該自治体から様々な要望が…

この会議は、今年8月に首相官邸で開かれた「核燃料サイクル協議会」の場で、宮下宗一郎知事が国に対し、地域と原子力施設の共生を議論する新しい会議の設置を要望し、実現したものです。

この日は、国から資源エネルギー庁の村瀬長官らが、県内からは宮下知事のほか原子力関連施設が立地するむつ市や大間町、六ヶ所村、東通村の首長らが参加。事業者側は日本原燃や東北電力など県内に施設が立地する5社の社長と、電事連池辺会長が出席しました。

宮下知事は「地域が自立的に発展できる道筋を描きたい」と意義を強調しました。立地4市町村は地域経済が

疲弊している現状を説明し、避難路や防災拠点といったインフラ整備の必要性を訴えました。とりわけ、むつ市の山本市長は、国策の原子力事業に協力することで地域振興や経済の活性化を期待したが、施設の運転開始時期が見通せず、いまだ目指した街づくりが実現していない状況を説明。加えて、今後必要な取り組みとして、施設が稼働した場合に備えた住民の防災・安全対策を挙げて、防災拠点の整備や人材の育成などを求めました。これに対し、国は2024年春までに20～30年後の将来像と基本方針、同年夏ごろまでに具体的な取り組みの工程表をそれぞれ策定する方針であると述べました。



11/29 東奥日報
より転載

原子力共生・共創会議出席の地元首長の主な発言

《宮下宗一郎知事》立地地域や本県が抱える課題の解決へ前進するような会議にしていきたい。県も立地4市町村も、国の応援を受けながら自立的に発展する道筋をしっかりと描きたい。

《山本知也むつ市長》地域課題を原子力施設との共生によって解決することで、真に共存共栄が果たされる。

《戸田衛六ヶ所村長》むつ小川原開発を受け入れた先人たちが描いた未来へは、まだ道半ば。避難道路の整備、円滑な避難環境の確保という課題を抱えている。

《野崎尚文大間町長》基幹道路の国道279号は、原子力災害や複合災害時の避難道路としては不安がある。国、県には1日も早いバイパス化を望む。

《畑中稔朗東通村長》避難路となる国道338号、279号、県道泊陸奥横浜停車場線などは整備が遅れている。



むつ市で「田名部まさよ国政報告会」開催、党员・サポーター約30名参加

立憲民主党青森県総支部連合会は10月より県内各地で、党员・サポーターを中心とした国政報告会を実施、12月2日には下北文化会館で開催されました。報告会には升田世喜男一区総支部長も駆けつけました。国会開催中ということもあり、統一教会問題や物価対策などの対応状況を丁寧に報告されました。

また、政治情勢は日々変化していることから明言はできないとしながらも、少なくとも来年の早い時期に総選挙があるだろうとし、何としても反自民の野党結集を実現させて岸田内閣を追い込むことが重要だと訴えました。

質疑応答では消費税への立憲民主党のスタンスや万博最優先の国家事業の中で地域のインフラ整備などが進まない現状の改善や湾内のホタテ養殖事業がかなり厳しい状況に置かれていることへの対応が求められ、田名部氏は一つ一つ丁寧に応じて、今後の国政活動に反映させることなどを表明しました。



野党結集をアピール

立民・田名部氏 むつで支持者と集会

立憲民主党青森県連は2日、むつ市の下北文化会館で支持者との意見交換会を開いた。代表の田名部匡代参院議員は、支持率が低迷する岸田政権について「1年だけの減税の先に何があるか、国民は見透かしている」と指摘。政権交代を狙える、与党と拮抗した政治勢力をつくる必要がある―と野党結集をアピールした。

10月の青森市、11月の五所川原市に続き3回目の開催。田名部氏の国政報告会も兼ねて行われ、支持者約30人が集まった。升田世喜男代表代行も出席した。

田名部氏は、世界平和統一家庭連合（旧統一教会）を巡る問題や物価高騰などに関する与野党の論戦について説明し、「国民の将来不安が高まっている。ごまかしは通用しない」と与党を批判。その上で、「迫力ある野党でない国民には見えてもらえない。単独が難しいなら連携、協力しなければならない」と続けた。

衆院解散・総選挙の見通しにも触れ、「年内はないと思うが、来年春以降はいつあってもおかしくない状況」との見解を示した。

（工藤文二）

逢坂誠二立憲民主党代表代行講演会を開催！ 今こそ、野党の結束が最重要な情勢にあると訴えました

社民フォーラム青森は 11 月 19 日、県労働福祉会館で本年 2 回目の政治学習会を講師に立憲民主党代表代行で衆院議員（北海道 8 区選出）の逢坂誠二氏を迎えて開催。下北からは目時、栗橋が参加しました。

講演では冒頭、現下の政治情勢に触れ、野党結集が最も重要な時期にきていることを強調。立憲民主党として「連合」や「共産党」などとの関りについて困難な立ち位置にあることは事実だがこれを乗り越える覚悟が必要であると述べました。また、アベノミクスをピークとする「失われた 30 年」を象徴する今日のわが国の経済状況を詳しく、かつ明瞭に分析し、経済政策の大規模な転換の必要性を訴えました。

講演後はフォーラムしもきたが事前に提出していた右の質問事項などに答えましたが、いくつかの点で分かりにくい対応だったことを認め、今後、党としてもあらためてわかりやすい見解を表明していくことを約束しました。その他、党の地方組織、特に地域支部組織運営体制などを巡る注文などが出されました。

立憲民主党の逢坂誠二代表代行は 19 日、青森市内で講演し、「考え方が多少違っても目指す大きな方向が一致しているなら、なるべく多くの仲間と手を携えることが大事」と野党連携の必要性を訴えた。



立憲民主党代表代行
「大きな固まりに」
青森で野党連携訴え

逢坂氏は、共産党との共闘路線が一部で批判を浴びたことに触れ、「ある種のいいかげんさ、懐の深さがなければ政治勢力は大きく

なれない。政策の細かな違いがあっても、片目をつむって大きな固まりになる必要がある」と強調した。

また、2017 年の衆院選時の「希望の党」合流に伴う旧民進党分裂について「あの騒ぎが今の日本政治に大きな影を落としている。本来一つであるべき野党第 1 党を二つに分断した」と持論を展開。「ここからもう一度、どうやって大きな固まりになっていくかが問われている」と述べた。

逢坂氏の講演は、政治団体・社民フォーラム青森（藤田誠代表）の政治学習会で行われた。（野村通）

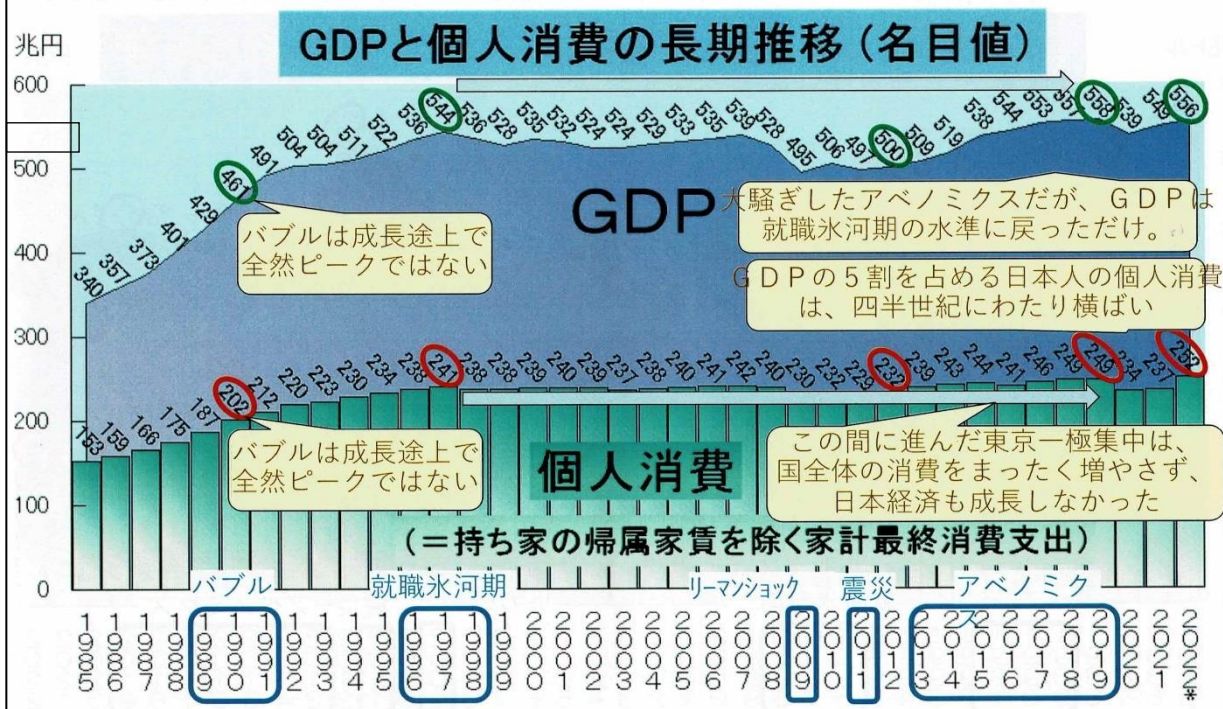
野党連携の必要性を訴える
逢坂氏 11/20 東奥日報

【フォーラムしもきたが事前に提出した質問事項の一部です】

- ① 立憲民主党が 11 月 10 日に発表した中長期の経済政策で前回の衆院選や参院選で公約としていた消費税率の時限的引き下げが明記されず、野党間の経済政策の足並みが乱れていることへの判断は何だったのか。
- ② 防衛生産基盤強化法案が 6 月に成立したが、これに立憲民主党も賛成しているが、私たちが望む党の姿とは大きくかけ離れる大きなターニングポイントだったと思うが、こうしたことに至った経過を問いたい。
- ③ 原子力基地化している本県、とりわけ青森県の現状について党本部としてのどう捉えているのか、また本県の政治的勢力分野でどのような活動が、より効果的なのかレクチャー頂きたい。

逢坂誠二代表代行の講演資料より

名目 GDP は四半世紀の間横ばい



講演資料を示し参加者の席を回りながら丁寧に講演する逢坂氏。

逢坂議員は本県平内町に実家を持ち、北海道ニセコ町長などを歴任し、衆議院議員 5 期目の党の柱の一人です。

片や大型弾薬庫、
片や経済効果半減、
これが本当にむつ市
がめざす方向なので
しょうか。

むつ・海自大湊再編計画

将来像 地元に表示されず

むつ市の海上自衛隊大湊地方隊の今後の在り方を巡り、地元関係者が防衛省や海上幕僚監部の対応に不信感を募らせている。来年度末までの横須賀地方隊（神奈川県）への統合が予定される中、新たに配備する護衛艦の種類など大湊の将来像は明らかにされず、一部の物品の調達に関しても従来とは異なる方式を採用する可能性が浮上しているためだ。今後の方向性次第では隊の規模や地元企業への影響は避けられず、懸念の声が聞かれる。

同省は大湊を拠点とする護衛艦を1隻増やして8隻体制とする考えだが、追加配備する種類などは示していない。

8月に公表した計画では、現在の定員規模を維持する一としたが、将来的な護衛艦の置き換えを含め、大湊の先行きが見通せない状況を受け、11月中旬には青森県や北海道選出の自民党国会議員らが組織改編に関する勉強会を開催。党県連は今後も対応を模索する考えだ。

江渡聡徳衆院議員は取材に、海自幹部らに対して再編に関する具体的な方向性を早期に示すよう申し入れたことを明らかにした上で、「今の段階できちんと説明してもらわなければ、地域にとっては（改編は）決してプラスにはならない」と強調した。

一方、改編の正式決定までは時間的な猶予がないのが現状だ。ある関係者は、むつ市の将来のためには地元による防衛省や自衛隊への積極的な働きかけが重要だ一との見方を示し、早い段階で活動を展開する必要性を指摘する。

（取材班）

国の対応に募る不信感

「優先度高めで取り組む」と答えたという。

大間原発に事故があれど、下北半島北側の国道279号、西側の国道338号は住民の避難路となる。現状でバイパス化に向けた整備が進むのは一部で、10月末には県が風間浦村易国間からむつ市大畑町木野部まで約14キロの概略計画を策定した。

終了後の取材に応じた3町村長によると、宮下知事は279号バイパス化に優先的に取り組む意向を示し、338号についてはまずは道路改良で対応する方針を説明した。

野崎町長は「優先するとの言葉をもらい、かなりスピード感を感じた」と期待を込めた。

（岩淵修平）

宮下宗一郎知事（右から2人目）に避難路の整備促進を要望した3町村長

11/20日、青森県庁

12/10 デリー東北



「優先度高めで取り組む」と答えたという。

大間原発に事故があれど、下北半島北側の国道279号、西側の国道338号は住民の避難路となる。現状でバイパス化に向けた整備が進むのは一部で、10月末には県が風間浦村易国間からむつ市大畑町木野部まで約14キロの概略計画を策定した。

終了後の取材に応じた3町村長によると、宮下知事は279号バイパス化に優先的に取り組む意向を示し、338号についてはまずは道路改良で対応する方針を説明した。

野崎町長は「優先するとの言葉をもらい、かなりスピード感を感じた」と期待を込めた。

（岩淵修平）

宮下宗一郎知事（右から2人目）に避難路の整備促進を要望した3町村長

11/20日、青森県庁

↑ 11/21 デリー東北

委員から計13件の意見が提出され、9項目に整理された。周辺住居に関わる配慮のほかに▽港からの輸送が長距離のため、方法書で資材搬入時の騒音と振動を評価すること▽希少な水生生物キタホウネンエビの生息域が存在する可能性がある一との専門家に聴取の上、影響を回避することなどを求めた。

青森市の県労働福祉会館で開いたオンライン併用の会議には委員10人中8人が出席。部会長に八戸工業大学の小玉成人教授を選任した。

県環境影響評価審査会部会は14日、ジャパン・リニューアブル・エナジー（東京）が、むつ市と東通村で計画している陸上風力発電事業について計画段階環境配慮書を審議した。事業想定区域の周囲500メートル以内に住居が多数存在し、騒音や風車の影が生活環境に影響を及ぼす恐れがあると見て、発電設備の配置に配慮するよう事業者を求める意見をまとめた。

むつ・東通風力発電周辺の住居に配慮を
県環境影響審査が意見

↓ 11/15 デリー東北

24年問題 スクールバス、一部減便

むつ市議会

一般質問

力企画政策部長は「24年度からスクールバスが一部で減便する」との見通しを示した。「通学問題は高校設置者の青森県の課題」として県に通学支援を求めるとともに、事業者のドライバ

「確保に向けて2種免許取得の助成を検討している」とを明らかにした。

角本部長は市内バス事業者への聞き取り調査として、路線バスには影響がないが、脇野沢地区から川

12/9 デリー東北



大間で陸上風力発電計画

岡山建設(六ヶ所)、出力4万6200キロワット

六ヶ所村の岡山建設(岡山信広代表)が大間町奥戸地区で陸上風力発電事業を計画している。事業名は(仮称)大間奥戸風力発電事業。工期は2029年3月～31



大間で計画されている陸上風力発電事業の住民説明会11月25日、同町

年11月、営業運転開始は32年4月を想定。4200キロワットの発電機を11機建設し、出力は最大4万6200キロワットを見込む。同社によると、実施区域は同地区の山間部360・5畝で、うち発電機を設置予定範囲は56・8畝。事業目的は良好な風況を活用した地球温暖化防止やエネルギー自給率向上、地元人材の雇用による地域振興の寄与。自治体側のメリットとして、税収増(操業期間の固定資産税)も挙げた。固定価格買い取り制度により発電の全量を東北電力ネットワークに売電。事業期間は20年で、終了後は社会情勢などを見ながら事業延長を検討するという。

同社は11月25～29日に大間、風間浦、佐井3町村で計5回の住民説明会を開催。担当者らが事業概要をはじめ、工事関係車両の走行ルート、環境影響調査の結果などを説明した。建設予定地の大間町では、住民から工事に地元業者を率先して起用するよう要望が出された。同社の小林純一常務は「建設現場に近い地元業者にやっていただくのは会社側にも利点がある。ぜひそのように進めたい」と前向きな姿勢を示した。発電機は3枚羽根でローター直径が最大117メートル、ブレード最上点は高さ最大175メートル。下北地域で現在稼働中の機体より大型で出力も高い。「国内メーカーは既に製造をやめており、海外製の機体が大型化しているため」と説明した。

高規格道路整備目指す

三沢市などは27日、同市と六ヶ所村を通る国道338号を複線化して下北半島縦貫道路に接続する「上北沿岸地域高規格道路(仮称)」の将来的な整備を目指す意向を明らかにした。上北圏域9市町村が来年度の重点事業要望書に新規で盛り込み、青森県に提出した。(藤野武)

新規の重点要望に

上北圏域9市町村

国道338号複線化を



新たな高規格道路は、第2みちのく有料道路の三沢・十和田・下田インターチェンジ(IC)周辺から三沢空港を経由して、小川原湖の東側や同村のむつ小川原開発地区を抜け、下北縦貫道の六ヶ所IC周辺につながるルートを想定する。東日本大震災で国道338号が一部通行止めになった経験が踏まえ、要望書では「南北アクセスの脆弱性が不安視され、都市基盤整備の複線化が求められる」と指摘。八戸方面と下北圏域の高速交通ネットワークも形成され「地域の発展に大きく寄与する」と強調した。県庁で行われた宮下宗一郎知事との意見交換で、小松山吉紀三沢市長が「容易でないことは重々承知している」とした上で提案の意義を説明。戸田衛六ヶ所村長は、下北半島の原発や核燃料サイクル施設の稼働を見据え「人や物の流れにプラスし、人の命の問題がさまざまな形で(道路整備に)反映されていく」と述べた。これに対して宮下知事は、現状では上北自動車道と接続する下北縦貫道の国直轄区間(野辺地十戸道路)を整備する優先順位が高いと説明。一方で原子力防災に資する可能性もあるため「(国や原子力事業者らが出席する)共創会議で触れていきたい」と応じた。重点要望書には新たな高規格道路整備を含めて7件の最重要項目を入れた。

同社は9月、日本原子力発電の福井県・敦賀原発の加圧水型軽水炉(PWR)用と、茨城県・東海第2原発の沸騰水型軽水炉(BWR)用のキャスク追加を申請していた。(熊谷慎吉)

原電用追加キャスクRFSが申請書補正

むつ市の使用済み核燃料中間貯蔵施設を運営するリサイクル燃料貯蔵(RFS、同市)は7日、新たなキャスク(金属容器)製造に向けた事業変更許可申請書の一部補正を原子力規制委員会に提出した。

キャスクに収納する使用済み核燃料の種類や燃焼度、冷却期間などを詳細に記載した。また、津波によって受け入れ区域などの遮蔽機能が喪失し、敷地境界外の実効線量が法令の線量限度である年間1ミリシーベルトを超える恐れがある場合は、受け入れ基数を制限することなどを明記した。

全国で話題の「檻の中のライオン」講演会が開催されました

『憲法を知る』ことをテーマとして全国で講演活動を行なう椋大樹（はんどうたいき）さんによる標記の講演会が11月25日、むつ市内の喫茶店「kaffe・tyst」で開催されました。

講演会は「憲法」を「檻」に、「権力」を「ライオン」に例えて、パペットを使いながら、日本国憲法についてわかりやすく解説、全国で600会場で実施されているものです。戦争放棄とか基本的人権とかの個別課題云々というより、立憲主義の本質と憲法の存在に重きを置きながら、巧みな話術でわかりやすいものでした。

この講演会がかつて青森市で行われた際に参加し感銘を受けた喫茶店主のYさんが一人で設営、開催したものです。講演途中にはコーヒープレイクもあり、3時間の長丁場でしたが、あっという間に過ぎました。狭い空間で参加者も10名弱でしたが有意義なものでした。



【憲法クイズ】憲法を守らなければならない人は誰？

A:国民すべて B:特定の人 さて、どちらでしょうか？

講演会のオープニングクイズでした。講師によると多くの会場では「A」という答えが多かったとのことです。しかし、憲法99条に「天皇又は摂政及び国務大臣、国会議員、裁判官その他の公務員は、この憲法を尊重し擁護する義務を負ふ」と明記されます。すなわち「特定の人：公務員」というのが正解でした。

「戦争を語り継ぎ、平和を考える集い」が12月9日、開催されました

例年、太平洋戦争開戦日（真珠湾攻撃開始日）前後に開催されている本集会は12月9日、海老川コミュニティセンターで開催されました。

集会は戦争体験記の朗読に始まり、記念講演は「大型弾薬庫に反対する市民の会」共同代表の吉田麟さんが弾薬庫問題をテーマにタイムリーなものでした。そもそも大型弾薬庫に格納されるミサイルとはどんなものなのか、

このことにより地元にどんなメリットがあるのか、昨今の北朝鮮のミサイル実験などを考慮すれば軍事費増加なども止むを得ないのではないか、といった点についてをわかりやすく話されました。また、こうした軍事関連問題は国の専管事項ということで一般市民はもとより当該自治体に対しても情報が入ってこないため、独自での学習会の積み上げが必要だと強調しました。



【ミサイルっていったい何でしょう】

北朝鮮が頻繁に発射実験する弾道ミサイル、日本が米国から500発購入するというトマホーク。では、そもそもミサイルの定義とは、①目標に向かって誘導を受けるか自律誘導によって自ら進路を変えながら、②自らの推進装置によって飛翔していく、③爆弾を搭載している軍事兵器のことです。ちなみにサイル1発の費用はおよそ3～4億円、射程距離が長いものと10億円にもなるとのことです。ミサイルの語源はラテン語で「飛ばす」「投げる」を意味する「mittere」から派生しています。またトマホークの語源はアメリカ先住民が使用していた手斧に由来しています。

【編集後記】今月も新聞報道中心の紙面となってしまいました。大型弾薬庫問題も市当局に再協議を申し入れ、防衛庁へも住民説明会を市サイドから申し入れてもらうことしていますが、まだ返答がきていません。中間貯蔵問題でもRFS社へ協議の申し入れを行っていますが日程は年明けまで先延ばしになりそうです。そんな中、記事にした「檻とライオン」憲法講座をたった一人で開催に漕ぎつけた喫茶店オーナーのYさんには脱帽です。今までの憲法講演会だと必ず9条云々がメインでしたが、今回は9条以前にもっと根本的なことを学んだ気がしま

す。本業（弁護士）をかなぐり捨てて全国を行脚し立憲主義の重要性を訴え続ける椋大樹さんにも頭が下がります。むつ市議会では前回、給食費無料化への意見書が賛成3名だったのが今回は全会一致で採択される見込みとのことです。この1年の間に子育て政策への関心が大きく変わったことの象徴なののでしょうか。市当局も無償化へ前向きなようです。その一方で大間、佐井、風間浦の3町村は学校給食を行っていないのが現状です。いろいろ事情や経緯があるのかもしれませんが県内でもこの3町村だけです。どうしたものでしょうか。（栗）

下北を舞台とした文芸作品について(後編)

今回は「北国の女の物語」、「魚影の群れ」などの紹介です

水上勉のもう一つの小説「北国の女の物語」(昭和 47)は完全に下北を舞台にした作品です。水上勉は昭和 35～36 年ごろ浅虫温泉で芸者をしていた風間浦出身の女性と出会い、その後その女性を訪ね何度も下北に来ています。

小説「北国の女の物語」は、大正 3 年 1 月 2 日、尻屋沖で難破した事故で大人が全員死亡したにもかかわらず、たった一人「長持ち様の編み箱にふとんに包まれ漂流」して助かった女の赤ん坊がいたわけですが、この記録をヒントに、水上が身の上話を聞いた風間浦出身の浅虫の芸者の人生を重ねて小説にしたものと思われます。

小説では、この赤ん坊は、田名部常念寺の別院の尻屋のお堂を守っていた婆さんに育てられ、尻屋の海を漂っていたので「沖子」と名づけられます。婆さんの死後は常念寺のお坊さんの世話で、8 歳で田名部の材木問屋に奉公し、18 歳で大間の貧しい漁師の家に生まれた番頭と結婚することになります。だが亭主は 1 年たらずでヒバの伐採で川内の山で転落死してしまう。この時、沖子には子が宿っており男の子を出産します。子育てをしながら生きてゆかねばならないが、身の回りでおこる様々な不幸を乗り越えて、美しくも懸命に生き、浅虫温泉南部屋の女中となるが、その天性の美貌ゆえに芸妓にスカウトされる。そこでも様々な不幸に見舞われるが前向きに生きるという語です。



昭和 48 年には吉村昭の短編小説「魚影の群れ」が映画化されています。大間のマクロ漁師房次郎(緒方拳)は、娘登志子(夏目雅子)に懇願されて彼女の恋人俊一(佐藤浩市)を嫌々ながら船に乗せます。何故、嫌々なのかは、娘を持つ男親の気持ちです。娘を取られるというのとマグロ漁は素人じゃできないというプライドです。その嫌々乗せた船で巨大マグロを捕らえたのですが、糸が俊一の頭に絡み、大出血します。房次郎は船を港に戻し、俊一を病院に運ぼうと思うのですが、マグロがまだ針についたままになっていることがわかったと、それと格闘しながら捕らえます。俊一は 2 時間も出血しながら放置されたまま、病院に運ばれた時は命が助かるかどうかかわからないような状態でした。結局は九死に一生を得るのですが、その後、娘とは他人同士のようにするという、老練なマグロ漁師の孤独な姿を描いた作品です。

平成 7 年(1995)には、堀川弘通監督の「エイジアンブルー浮島丸サコン」が映画化されました。「平安建都 1200 年映画をつくる会」の企画による、戦後 50 年作品

です。タイトルのサコンとは、ハングルで事件を表す言葉です。

戦時中下北半島で大間鉄道の建設など過酷な労働を強いられた朝鮮半島の人たちを、終戦直後の 1945 年 8 月 22 日釜山に送り届けるため大湊港を発った浮島丸(4730 t)が舞鶴港で爆破撃沈し、549 名(うち乗務員 25 名)が死んだ事件を扱った映画です。平成 7 年 6 月に下北文化会館で上映した時は満員だったと聞いています。

教え子のレポートに興味をそそられた京都の大学で歴史を教える林は、実際にそれを書いたのが彼女の姉であることを知る。彼の興味を引いたのは、その中に戦後 2 冊の詩集を出して姿を消した詩人・高沢伯雲の未発表の手記が引用されていたことであつた。彼女から伯雲が彼姉妹の実父であることを知ると、林は行方知れずとなつた伯雲の足跡を辿る旅へ彼女たちを誘う。父との確執もあつて乗り気でなかった姉も、妹の強い希望もあつて下北へと向かう。そこで伯雲に世話になったという人から、戦争中の伯雲を巡る話を聞かされる。ひどい扱いをうけていた朝鮮人強制労働者たちとの生活に心を揺さぶられる。さらに、浮島丸事件との関わり、終戦 4 日後、友人一家が帰国のため乗船した釜山へ引き上げる浮島丸が沈没。伯雲は命の恩人であつた彼らの乗船を阻止しようとして失敗し、今でも後悔の念に苛まれているという。

父の放浪人生の真相を知った姉妹は、弘前、出雲崎へと旅するが、消息はつかめなかった。夏、舞鶴に父がいるとの情報を得た姉妹は、今は灯台守として働いている伯雲に再会。父娘の、そして過去に対するそれぞれの思いをぶつけあつた。その後、姉妹は平和への願いを込めた“白い大文字”などの活動に参加するようになっていました。

※ この文章は寺島豊美氏(青森市在住)の「下北の昔あれこれ」から抜粋し、「エイジアンブルー浮島丸サコン」については栗橋が一部補足しました。



「飢餓海峡」「魚影の群れ」「浮島丸サコン」の映画 DVD は栗橋が持っています。貸与できますので連絡ください。